

【1】

問1 エ

問2 (模範解答)

彼が考えた文化祭のクラス企画は、とても魅力的で楽しそうに聞こえるが、現実味がないため、絵に描いた餅になりかねない。予算や人員の配置などもっと綿密な計画をたてる必要がある。(85文字)

問3 イ エ

問4 阻

問5 イ

問6 きんき

問7 (模範解答)

本文中で述べられている通り、国の機関である厚生労働省が、医療機関に対して、期限を区切って電子処方箋への移行などのDX化を推進するべきである。ただし、DX化するにあたって各医療機関では、さまざまな費用や問題が発生する可能性がある。そのため、DX化にかかる補助金を支給することや、国が主体となった統一のシステムを構築するなど、各医療機関のみに大きな負担がかからない国主導の仕組みづくりが重要である。

【2】(出題の目的)

口頭による質疑応答では測り得ない、文章構成力、並びに文章理解について測るための出題である。出題内容としては、本学アドミッションポリシーである「本学での学びに強い意識と意欲を持った人」、「様々な分野の意欲を持った人」を問う内容とする。

(模範解答)

私が高校時代で経験した「挑戦してみよう」と感じた場面は、高校3年の秋に、地元で毎年開催されている市民駅伝に参加したことだ。

ある時、小学校から仲の良い友人と、高校生活も終わりだから何か思い出に残ることをしないかという話になり、秋の市民駅伝に出ようということになった。私はもともと運動が苦手で、最初は気乗りしなかったのだが、これまで苦手なことに飛び込むという経験がなかったので、ここで思い切って挑戦することは自分を成長させ、大学受験を乗り越える練習にもなるのではないかと、必ず高校生活最後の思い出になるだろうと思い、参加を決断した。何よりも、友達・仲間の存在が勇気づけてくれたことも大きかった。

それからは、受験勉強の合間、走る練習にコツコツ取り組んだ。たまには友人たちと一緒に走ることもあった。しかし、1人あたり約3km走ることは、運動が苦手な私にとって想像以上の苦しさであった。最初は1kmぐらいから始め、徐々に距離の延ばし、何とか3kmは走れるようになり、大会当日を迎えた。

結果は最下位で、たすきもつなぐことはできなかった。しかし、そんな私に沿道から市民の人たちが声援を送ってくれ、それに励まされて何とか完走して次の走者に白たすきを渡すことができた。その時の達成感、満足感は非常に大きく、今でも鮮明に思い出せる。

これらの経験を通じて得たことは、「他人のありがたみ」と「あきらめないことの大切さ」である。友人のような深い関係であっても、応援してくれた市民のようにそこまで関係が深くなくても、他人の存在は決断を後押ししてくれたり、苦しみを残り超えられるよう励ましてくれたりする。すなわち、人に力を与えてくれるのである。また、どんなにつらく苦しくても一步一步進んでいけば、必ずゴールにたどり着く。あきらめない心はゴール到達に必須の要素といえる。私は、この2つの教訓を大学生活やこれからの人生に活かしていきたい。